

ファシリテーター養成リレー  
講座では、文化の背景を考  
えて相互理解を深めることを  
促している

静岡県

はままつ国際理解教育ネット

## 地域から社会を変える 人材を育成

日 系ブラジル人が多く住む静岡県浜松市。2010年に設立された「はままつ国際理解教育ネット」は、参加型学習を通じて多文化共生の町づくりを目指し、さまざまな活動を行っている。

JICAや浜松国際交流協会と共に毎年2月に開催しているはままつグローバルフェアは、異文化を実感してもらうプログラムを数多く提供し、参加者に好評だ。それに



加えて、国際理解教育ファシリテーター養成リレー講座も運営しており、国際理解の仲介者の育成にも努めている。同講座では、世界が直面しているさまざまな課題について毎回テーマを変えて学び、地元の課題との共通点を知ることで、互いを理解し自分たちにできることを考える場を提供している。受講者が後に大学の国際関係学部に進学したり、青年海外協力隊に参加したりするなど、課題解決のために一步踏み出人を数多く輩出しているのも特徴だ。はままつ国際理解教育ネットの目標は、学校教育、社会教育、家庭教育の三つの軸を通して地域や世界の現状を変え、異なる背景を持つ人々が共生できる社会の在り方を発信していくこと。今後も、地域に密着した国際理解を支える活動を展開していく。

教育改革が進む中、世界について学び、課題解決を考える「開発教育・国際理解教育」に注目が集まっている。地元に密着し、学校現場の取り組みを支援する組織を紹介しよう。

## 教室を変える地域の取り組み

学校教員向けの分科会で  
情報交換をする教員たち



山形県

認定NPO法人 IVY

## 県内のさまざまなセクターと 共に国際理解を推進

1 1991年に設立された「IVY」は、地元・山形を拠点に、地元での開発教育や在住外国人の支援、中東での難民支援、カンボジアの農村支援など、国内外でさまざまな活動を展開してきた。開発教育では、学校などへのファシリテーターの派遣、環境教育と開発教育を合わせた「地球子どもキャンプ」など、国際理解の裾野を広げる活動に取り組んでいる。

毎年11月に開催する「国際理解実践フォーラム」は、JICAや山形県国際交流協会との共催で行われる、大きなイベントだ。2004年に始めた当初は国際理解教育だけ

を扱っていたが、現在では国際協力・開発教育・多文化共生の分野で六つの分科会を開き、150人以上が参加している。主催3団体の他、大学、教員、学生、青年海外協力隊OVなどで構成される実行委員会が企画運営を行っている。

学校教員向けの分科会は、授業時間や生徒の理解につなげる工夫など、教員ならではの悩みを相談し合い、互いの実践例を共有する場ともなっている。教員同士のネットワークを広げ、開発教育の実践を支えていくために、IVYは今後ともフォーラムを継続していく。

神奈川県

Asante! アサンテ

## 子どもが主役、“思い”の実現を後押し

J ICAの教師海外研修でタンザニアを訪問した井上文裕さんが中心となって、年6回ほど、子どものための国際理解ワークショップを開催している「Asante!」。JICA横浜と連携し、海外で活動中の青年海外協力隊員の協力を得て、世界各地の

“今”を学ぶ機会をつくっている。ワークショップでは、子どもたちが知りたい、学びたいと思うことを意識してテーマを選定。井上さんは、「子どもたちがしばしば、開発途上国の子どもたちと同じ視点に立って問題について考えていて、うれしく思っています。持続可能な関係を築くためには、相手と同じ視点に立つことが不可欠だと思っています」と語る。今年はカンボジアのコンポンチュナンで活動中の協力隊員、山岸真喜子さんと共に、さまざまな生き方を学んでいく予定だ。

開発教育という言葉にとらわれず、途上国で活躍する人々の声に触れることで、子どもたち自身に夢や思いの実現に向けて踏み出でほしいというのが、Asante!の考え方だ。「教育は自分の思いの実現のために必要なものです」と語る井上さん。これからも、子どもたちと共に世界を学んでいく。



子どもたちを活動の中心に据えるAsante!

## 全国規模の取り組みも

国内でニーズが高まる開発教育・国際理解教育の推進に向けて、全国的な活動も盛んになってきた。

民間では、市民団体や学会など、さまざまな組織が独自の研修や実践報告会、教材の作成・提供などを通じて、開発教育・国際理解教育の拡大と推進に努めている。NPO法人開発教育協会(DEAR)や一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GIFT)、日本国際理解教育学会などが主な活動団体だ。他にも、海外の活動現場での経験を日本の教育活動に還

元する国際協力NGOがある。開発教育・国際理解教育と“持続可能な開発のための教育(ESD)”の取り組みとは重なるところも大きく、ESD活動推進センターと日本ESD学会との連携も拡大中だ。

JICAも、国際協力事業を通じて培った知見を、子どもたちに役立つ形で伝え、共に感じ、考えていくことで日本の教育に貢献すべく、教員向け国内・海外研修や教材作成・提供、出前講座などの開発教育・国際理解教育支援事業に取り組んでいる。